

大学入学共通テストに挑む

「探究能力」をどう育てるか

石川県立金沢泉丘高校



研究計画の話し合いは教員も交えて活発に意見が飛び交う

「私たちは石川県民の、実践的な英語力をさらに高める必要があると考え、増加し今後のグローバル



ハンゲショウを見せて生徒たちに質問する廣瀬志保教頭

「今日の一品はハンゲショウです」山梨県立吉田高校で7月10日にあった生物の授業。廣瀬志保教頭が生徒たちに見せたのは、この時期に小さな白い花を咲かせる半夏草という植物だ。花のすぐ下の葉が、同じように白く見えることから半化粧とも呼ばれる。「なぜこの部分だけ白くなっているのか、どうして葉の裏側は緑色なのか」と生徒たちが質問を繰り返す。廣瀬教頭は「探究学習の冒険で行っているのが『今日の一品』と呼び取っています。教科書で扱うタイミングや季節に合わせて生き物を採り、生徒たちに簡単な観察を取らせ、観察をさせることで、生き物のわずかな違いにも目を

山梨県立吉田高校

自己肯定力など伸ばしたい八つの力示す

い」と廣瀬教頭は言う。吉田高校では、3年を通して生徒に身に付けさせた力を「吉高OP(グラデュエーション・ポリシー)」として「傾聴力」「自己肯定力」「思考力」「発信力」など八つの形で示している。2年前から取り組みを始めた高橋裕樹校長は「AI(人工知能)が発達し、グローバル化が進む時代を生きる上で必要な力を考えた。教科だけでなく部活動や学校行事でも八つのうち、どの力を伸ばしたいのか指導計画に位置付け、生徒には振り返りで、どれだけ力が付いたのか自己評価を書かせる。吉高OPの中で高橋校長が特に重視しているのは「自己肯定力」だ。(平成27年度入試から全県一学区制を導入。吉田高校には地元中学校の学力上位層が集まり、進学実績も上がった。その一方で、入学後に自信を失う生徒の姿も目立つようになった。)



ポスターを発表する並木中等教育学校の生徒たち

「成績評価だけでは、どうしても下位になった生徒の自信が失われてしまふ。多面的に自分の成長を知ることで、もっと強みを伸ばそうという意識に変わってほしい」と高橋校長。集計では8割以上の生徒の「自己肯定力」が高まるなど成果が表れているという。今年3月、茨城県のつくば国際会議場。スーパーサイエンスハイスクール(SHS)指定校の茨城県立並木中等教育学校の発表会が開かれた。発表では、科学や生物、情報や社会科学など、さまざまな分野の研究が壇上に立った生徒のグループの一つ、科学研究部の3人は、体の動きをデジタルで読み取り、再構築する「モーショントラッキング」の発表を披露した。モーショントラッキングとは映像制作などの現場で広く使われているが、価格が高かったり、大きな機材が必要だったりして、誰もが使うにはハードルが高かった。3人は「気軽に利用できるモーショントラッキングが欲しい」とセンサーと制御の社会問題をテーマに

茨城県立並木中等教育学校

6年一貫のカリキュラム、教科の枠超え

研究する。後課程(高校相当)では学校設定科目「理数探究」を置き、ゼミ形式での研究に取り組む。卒業時にはA4で10枚以上の研究論文の提出を求めている。SHS担当の吉村大介教諭は「良い結果を残すことも多いが、問いを掲げて実行し続ける過程を大切にさせている。生徒たちには失敗経験を積み重ねることを奨励する」という。数学の授業に理科を取り入れた「数理科学」も実施する。教科の枠を超えた科学教育が特長だ。2008年の開校からわずか11年で、難関大学の進学者数や「科学の甲子園大会」などのコンテストで実績を上げてきた。さらに論理力を鍛えようとして取り入れているのが、他学年の生徒が教える「TOE(ティーチング・アザーズ)と呼ばれる学習法。教えるためには深く学ぶ必要がある。相手に伝えるには分かりやすく説明する必要がある。そのための工夫が、論理力や主体性を育てると考え、現在の中島博司校長が取り入れた。中島校長は「教師が教えるべきは生徒の探究力は育たない。本気で明らかにしたいと思える疑問を持たせること、アクティブ・ラーナを育てていきたい」と話す。

SDGsと関連付け研究 グローバル化を見据えて

生徒たちに、教員が真剣なまなこを送った。フィールドワークを交えた地域の課題やグローバルな課題を1年間かけて研究する2年生の探究科目だ。英語力を研究テーマに取り上げたグループ

は今後、街頭アンケートやドキュメント、文科省のスピーチプログラムハイスクール(SGH)でもある金沢泉丘高校は普通科の生徒全員に3年間を通してSDGs(持続可能な開発目標)と関連付けた課題研究に取り組ませている。1年生には基礎的な探究スキルを身に付けさせよう、統計学とプレゼンテーションに関する科目を履修。さらに「公民」2年生の杜結衣さんは

2019 第6回 夏の本番間近! 大学入試改革の教育セミナー

WEBからソクソクお申し込みをいただいています! お申込み受付中!

6年目となる! 実践型へ!

分科会は、教科別の授業実践を選べます! 英語 数学 国語 探究

英語 東進ハイスクール・東進衛星予備校/安河内哲也先生

数学 東山高校/鶴田貴司先生

国語 渋谷教育学園渋谷高校/河口竜行先生

探究 茨城県立並木中等教育学校/中島博司校長